



## ahead homme ADVENTURE

### エピローグ■実戦に臨む

文・竹内俊介 写真・前田恵介

レース直前の十一月三日、新車のようにな生まれ変わった「俺のランボ」のチェックを行った。この日、初めて混走で走るのだ。「上手い人は避けるのも上手いから、周りを気にしないで走つてください」という岩崎さんのアドバイスを受けてコースイン。シックカリとした安定感がある。特に直線区間でマシンのふらつきがない(サスペンションのガタを取った効果か)。しかし、さらにペースを上げたところでクラッシュ。岩崎さんの指示で残念ながら走行は終了。この日は、各部をチェックして本番のレースに備えることにした。

十一月五日、本番の日。朝七時に京商サーキットに着くと、既に多くの参加者が集まっていた。驚かされたのは、ペテラン勢の持ち込む機材。アライメントゲージやタイヤウォーマーなど、まさに実車のレース以上の雰囲気である。さて、今回エントリーしたN1クラスには十四台の参加車がいる。これを七台ずつ二組に分け予選を行う。予選は各二回行われ、上位十台を決定し決勝レースとなる。予選落ちグループによるコンソレーションレースが行

われるあたりも実車のレースと同じだ。予選一回目。呼ばれたゼッケン順にスタートする。「とにかく、自分のペースで完走してください」という岩崎さんのアドバイスを上の空で聞きながらスタート。緊張で指先が震えているのが解かる。何度もクラッシュをしながらも無事完走。七台中五番手の結果だった。統いて二回目の予選。今度はコース全体が少し見えてきた。ところが、いい感じだと思った瞬間にクラッシュ。気を引き締めて完走を目指すことにした。結果は再び七台中五番手。

一秒ほどタイムアップしたものの、トップとの差は四秒近い。結果は決勝レースに残れず、コンソレーションレース組となつた。ただし、一応ホールポジションだ。

そして午後、四台によるコンソレーションレースがいよいよスタート。ところがエンジンの調子が悪く、すぐに二番手、三番手と順位を落とした。五周目くらいで、突如エンジンが息を吹き返す。よしーとばかりに指先に力を入れた瞬間、大クラッシュしてハンドルが効かなくなってしまった。岩崎さんのすばやい修理で再スタート



予選時のゼッケンは3番。ボディー両サイドとボンネットに貼る。これも実車レースと同じ。

ペテラン勢の機材と気合には驚かされた。予選開始に向か、タイヤウォーマーを使用中。

岩崎さんの指示通り慎重に走つたつもりだったが、気を抜くとクラッシュしてしまう。

こちらのペテランは本番走行に向け駆動系をウォームアップ中。これも実車レースと同じ。

トするが、その後はフラフラとした走り。何とか三位でゴールすると、「熱くなっちゃダメですよ。もっと冷静さを保つてください」と、岩崎さんからキツい一言。精神的な脆さを指摘されてしまったのだ。悔しさは残るが、レースの楽しさは味わえた。抜かれた悔しさ、抜いた快感。これらはいずれもレースの場でしか味わえない感覚だ。もちろん、次こそはという思いも沸いてくる。これこそ、勝負の世界の醍醐味だ。

ところで、エンジンカーという選択は正解だった。何故なら、メカ的な魅力に加え、F1を彷彿させるエンジンサウンドもエキサイティングだからだ。レースに参加することでラジコンの魅力は倍増した。チームメイトや同好の仲間とのコミュニケーションなど、一人で楽しむバーチャルなゲームとは一線を画している点も魅力の一つか。もちろん、親子で楽しめる点も見逃せない。

以上、これまでの出費、八六、九五四円。このプロジェクトは本稿を持って一旦終了するが、「俺のランボ」でのレースは続けるつもりだ。